

二〇一七年二月一七日

自転車をドミノ倒しに春嵐
春雨や竹林の土ふつくらと
餌ねだる鯉の口へと風花す
梅ヶ香の林を抜けて湯薬師へ
総玻璃の超高層ビル春の雲
朝毎に春寒かこち床出でず
蒼白の彼が阿南か涅槃絵図
海光のゆきわたりたる花菜畑

二〇一七年二月一六日

梅日和巡る二の丸三の丸
引き網に跳ねて歓声桜鯛
銀嶺に視線あそばせバスを待つ
ゴルフ打つナイスショットと初音かな
水鳥の一夜に去りて池無聊
パンジーの花びらゆするほどの風
涅槃会の読経佳境や灯の揺るる

二〇一七年二月一五日

歴日の松を映して水温む
梅林に透けて展けし海ま青
しだれ梅地に触るるほど蕾みけり
防空壕入り口埋めて草青む

まゆ

菜々

さつき

明日香

ぽんこ

ともえ

たか子

よし女

はく子

智恵子

有香

宏虎

まゆ

三刀

ぽんこ

菜々

よし女

ともえ

なつき

二〇一七年二月一四日

滑り台ペンキ塗り立て春近し
木道をけんけんばして踏青す
鍵穴に上手く入らぬ寒さかな

二〇一七年二月一三日

三輪車上手に乗れて山笑ふ
福の豆拾ひて朝戸繰りにけり
春きざす園に行き交ふ試歩の人
枝に透くま青な空や梅の丘

二〇一七年二月一二日

梅固し亀は汀に身じろがず
中洲へと犬も渡りぬ潮干狩
と見る間に海の色失せしぐれけり
春光に包まれ進むモノレール
冬の湖鈍色染めて水鏡

二〇一七年二月二日

卒業子弁当箱に感謝状
拾ひ来し剪定の梅よく香る

さつき

なおこ

たか子

菜々

さつき

はんな

ひかり

豆狸

治男

ひかり

満天

なおこ

智恵子

やよい

毎日句会みのある選・二〇一七年二月一九日